

内山工業

フェイスシールド生産

コロナ
感染予防 医療機関などに供給

自動車部品メーカー

の内山工業（岡山市中区小橋町）は、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、透明なシートで医療従事者の顔を保護するフェイスシールドの生産を始めた。樹脂部品の製造技術を活用。自治体や医療機関などに供給する。

顔を覆う透明な樹脂

シート（縦32センチ、横37センチ）と、頭に固定するバンドで構成。衛生面に配慮し、シートは面ファスナーでバンドに取り付けて簡単に交換できる仕組みにした。樹脂部品の成形や加工を手掛ける御津工場（岡山市北区御津河内）の設備で生産する。

同社によると、岡山

県から生産要請があり、医療資機材を扱うカワニシホールディングス（同下石井）の助言を受けて開発。第1弾として同県にシート

6千枚、バンド千個のセットを納入した。今後は県外にも販売する計画で、月産10万セットを目指す。

内山工業は「自社の技術を生かし、感染予防の物資が不足する中で働き続ける医療現場の不安解消に貢献したい」としている。

（伊東圭一）

内山工業が生産を始めたフェイスシールド

